

協議第 10 号

小城市文化振興補助対象団体認定について

このことについて、別紙のとおり協議する。

平成 29 年 12 月 28 日提出

小城市教育委員会 教育長 大野 敬一郎

提案理由

小城市文化振興補助金交付要綱に基づき補助対象団体認定の要望書が提出されたため協議する。

# 小城市文化振興補助団体要望書

当団体は、平成 11 年 2 月小城本町再開発に伴い、小城神楽を立ち上げ地元  
芸能として誕生させた。これまで、半津芸能まつり、三里牛尾梅まつり、小城  
本町シャンシャン祭、結婚式等のイベントにも参加し、地元芸能として進展に  
期待をされている。一方会員負担増を過分にも軽減し、会員の増強を計り地元  
芸能の質の向上をにらむ等の理由により小城市文化振興補助団体の認定を要  
望いたします。

小城市長 様

平成 29 年 11 月 24 日

団体名 小城神楽会

代表者名 会長 八頭司 博

住 所

電 話

(添付資料) ・予算書 (予算がわかるもの)

平成 28 年度収支報告書

自：平成 28 年 4 月 1 日

至：平成 29 年 3 月 31 日

(収入)

単位：円

項 目	予算額(A)	決算額(B)	増減(B)―(A)	備 考
前期繰越金	9,959	9,959	0	
会 費	54,000	54,000	0	500 円×9 人×12 月=54,000 円
事 業 費	0	0	0	
活動支援金	30,000	30,000	0	小城本町開発組合より補助金
雑 収 入	28,439	12,000	―16,439	お花
合 計	122,398	105,959	―16,439	

(支出)

項 目	予算額(A)	決算額(B)	増減(B)―(A)	備 考
総 会 費	20,000	15,570	―4,430	弁当お茶 9 人分
会 費	1,500	1,500	0	小城市文化連盟会費
施設使用料	35,000	33,282	―1,718	ゆめぷらっと小城
運 営 費	5,000	5,000	0	備品
会 議 費	10,000	23,500	13,500	弁当お茶代
事務通信費	3,000	6,000	3,000	コピーポスター
接 交 費	10,000	11,490	1,490	
雑 費	5,000	5,000	0	
次期繰越金	32,898	4,617	―28,281	
合 計	122,398	105,959	―16,439	

平成 29 年度事業計画

自：平成 29 年 4 月 1 日  
至：平成 30 年 3 月 31 日

(収入)

単位：円

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減(A)-(B)	備 考
前年度繰越金	4,617	9,959	-5,342	
会 費	90,000	54,000	36,000	500 円×15 人×12 月=90,000 円
事 業 費	50,000	0	50,000	出演料(5 回)
補助金・支援金	10,000	30,000	-20,000	小城本町開発組合より支援金
雑 収 入	20,000	12,000	8,000	お花
合 計	174,617	105,959	68,658	

(支出)

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減(A)-(B)	備 考
会 費	3,000	1,500	1,500	文化連盟会費
施設使用料	115,584	33,280	82,304	プラザ大ホール使用
接 交 費	56,250	34,990	21,260	総会・会議の弁当お茶(6 回)
広報・事務費	60,000	6,000	54,000	ポスター・チラシ・コピー代
予 備 費	2,770	4,057	-1,287	
雑 費	10,000	622	9,378	備品・衣装手直し
次期繰越金	-72,987	25,510	-98,497	
合 計	174,617	105,959	68,658	

# 平成 29 年度 小城市文化連盟 団体活動状況調査表

平成 29 年 4 月 1 日現在

支部名	小城市支部		
グループ名	ふりがな	お ぎ か ぐら かい	部門
	小 城 神 楽 会		
代表者名 (会 長)	ふりがな	やとうじ ひろし	電話
	氏名	八頭司 博	
	住所	[REDACTED]	
副代表者 (副会長)	ふりがな	かなまる もりと	電話
	氏名	金丸 盛登	
	住所	[REDACTED]	
指導者名 (事務局)	ふりがな	し だ よしひろ	電話
	氏名	志 田 義博	
	住所	[REDACTED]	
利用施設名	小城市まちなか市民交流プラザ（ゆめぷらっと小城市） 大会議室と大ホール		
発足年月日	平成 11 年 2 月 18 日 小城市神楽会として発足する。		
会 員 数	9 名 (代表者含む)	内訳 男性 7 名 女性 2 名	大 人 9 名 子 ども 0 名
会 費	○ある ・ない		金額 (月: 500 円)
入 会 金	・ある ○ない		金額 ( 0 円)
活動状況	活動内容		○平成 28 年度事業 ・ 7 月小城市未来スイッチ交付金事業を受ける（節分祭を計画） ・ 8 月神楽講座（ゆめぷらっと小城市で行う） ・ 11 月文化連盟主催の文化祭参加（ゆめぷらっと小城市で披露） ・ 11 月まちの駅イベント（まち灯り）参加（小城市駅前広場で披露） ・ 2 月節分祭開催（岡山神社境内で披露） （小城市未来スイッチ交付金事業で行う） ・ 2 月清水寒鯉まつり参加（鯉御殿で披露） ・ 3 月小城市未来スイッチ交付金事業の実績報告書を提出し完了
	練習日	時 間	場 所
	毎週水曜日	19:30~21:30	ゆめぷらっと小城市 大会議室と大ホール
人材バンク	現在全団体に、別紙「活動報告書」をお願いしています。 なお登録されている方は、そのまま継続となります。  新規で登録する方は別紙「登録申込票」にてお申込み下さい。		
新規会員受け入れ	新規入会希望があれば受け入れは <input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない		
問合せがあった場合	電話番号を <input checked="" type="checkbox"/> 教えていい <input type="checkbox"/> 教えない <input type="checkbox"/> 直接教室見学を案内してほしい		

## SACRED MUSIC AND DANCING



### はじめに

小城神楽は平成11年2月18日、小城本町開発にともない小城の環境を取り巻く歴史・文化を重んじ、小城市はもとより中心街の発展と、ひいては小城伝承芸能として育み培われることを楽しみに取り組んでおります。

この神楽は神事でおこなわれる舞楽(ブガク)です。民間の神社に昔から伝わる舞劇です。別名、里神楽とも言われます。

地元では岡山神社があります。寛政元年(1789)二月三日、小城藩鍋島七代藩主鍋島直愈が、藩祖元茂を国武明神、二代目藩主直能を矛治明神として祀り、「国武社」と称されています。嘉永六年(1953)現在の場所に社殿をつくり、十月二十六日遷座祭りがおこなわれてい。また文武両道の神であり、柳生の里にも相応しく、地元の人々の崇拝を集めています。

## 神 楽

神楽とは、いったい、どんなものでしょうか! と良く聞かれます。神楽資料からご紹介しましょう。

神楽とは神を祭る為に奏する音楽、天照大神が天の岩屋戸に隠れたもうた際、八百万の神神が其の戸の前で御心を慰めようとして舞楽を行ったのに基づくという。今も宮中の祭事、各神社の際祀に神社で行われる。もともと民間の激しい動きの行事とは違い、貴族の悠長な宴遊的気分が濃厚である。(日本文学史概説・市古貞次著)とある。

小城神楽は平成11年3月15日に岡山神社で新作披露をおこない、今日に至っております。神楽では新しいので「平成神楽」と呼んでいただいても結構です。

発会から5年ほどして会員も5人となり、一時期は存続も危ぶまれましたが地域の人々にご支援していただき継承致しております。



大和武尊と土蜘蛛の戦い

地元には馴染みの薄い神楽だけに会員もやりがいを感じてます。

行政、団体等のご協力も

一段と熱を帯びてきました。

## 神 楽 面



大和武尊



土蜘蛛



桜の精



酒の精



羊羹の精



## 演 目

<sup>おき</sup>  
堡神楽⇒小城神楽は古文書(風土記・肥前風土記)には次のように記述してあります。

### 第一演目「<sup>ほき</sup>堡」

<sup>をき</sup> <sup>こほり</sup> <sup>さと</sup> <sup>ところ</sup> <sup>こざと</sup> <sup>うまや</sup> <sup>とぶひ</sup>  
「小城の郡、郷七所、里二十、驛一所、烽一所

<sup>むかし</sup> <sup>つちぐも</sup> <sup>をき</sup> <sup>こも</sup> <sup>おほみこと</sup> <sup>したが</sup>  
昔者、此の村に土蜘蛛あり、堡を造りて隠り、皇命に従はざりき。

<sup>やまとたけるのみこと</sup> <sup>めぐりいでま</sup> <sup>ひ</sup> <sup>ことごと</sup> <sup>つみな</sup> <sup>よ</sup> <sup>をき</sup> <sup>こほり</sup> <sup>なづ</sup>  
日本武尊、巡幸し日、皆悉に誅ひたまいき、因りて小城の郡と號く。」とある。

(注) <sup>うまや</sup> 驛・・・うまや・しゅく(交通、ツウシンなどの便利を図る所

<sup>とぶひ</sup> 烽・・・外敵の侵入を知らせる為にあげる火

<sup>つみな</sup> 誅・・・兵力で責めうつ

四世紀の中頃(今から1550年前)小城の郡の、地域の土着民は土蜘蛛と呼ばれ、<sup>おき</sup>堡と呼ばれる防御のための城塞を築いて、これに籠もり、大和朝廷の命令に従わなかったので、時の第11代天皇景行天皇の子、日本武尊により征伐されました。そこで、この地域を堡(ほき)すなはち「小城」と呼ばれるようになった。

この地名伝説だけでは「小城」を是認することは出来ないが肥前国風土記が編集された当時すでに「小城」と言う地名で呼ばれていたことだけは確かである。

では、第一演目「土蜘蛛」の5つの場面構成をご紹介します。



桜の精が現れ、戦う両者をいさめる

- 1の場面 巫女(みこ)4人による清めの舞
- 2の場面 土蜘蛛が現れ傍若無人に振る舞う舞



3の場面 堡(ほき)に立て籠もる土蜘蛛を退治にやって来た日本武尊の舞

4の場面 笛、太鼓の音が盛り上がり、日本武尊と土蜘蛛の壮烈な舞

5の場面 そこへ、桜の精が現れ、戦う両者をいさめ、やがて高ぶる土蜘蛛の魂も鎮まり、小城に平和が訪れる。と言う筋書きです。

## 第二演目「領巾振山」

1の場面 羊羹の精と酒の精が、党談義に白熱する内、松浦の浦(領巾振岩)に着く。

2の場面 その岩の前で羊羹の精と酒の精が佐用姫、狭手彦の出会いから別れの様子を舞語るとその岩が動き出し、佐用姫の霊が現れる。

3の場面 佐用姫が狭手彦への激しい恋慕の情を舞うと、狭手彦の霊もいつしか現れ二人の再会を喜ぶ連れ舞となる。

4の場面 やがて狭手彦はに肩身の鏡を残して消えていく。

5の場面 佐用姫は、狂ったように狭手彦を探し求めたあげく、領巾(ひれ)を降ったままの姿で岩になっていく。

6の場面 羊羹の精と酒の清が再び登場し、佐用姫、狭手彦の魂を慰める。

この「領巾振山」は小城の地場産品振興の意味から酒と羊羹を表現いたしました。



## 第三演目 少年剣舞と稚児の舞

指導	舞台芸能家	伊佐谷門取 (有限会社 地雷也)
	脚本家	北林佐和子
	製作プロデュース	羽田野次郎 株式会社サウンドワークス
	面師	梶原一龍
	演舞振付指導	真子通子 舞踊藤間流師匠

# 会員募集中

郷土の伝統的芸能をわたし達の手でつくりましょう。

お問い合わせ・ご入会は、こちらへ

小城神楽会 会長

事務局